

# 生きがいと健康づくりの推進 ⑩



伊藤会長

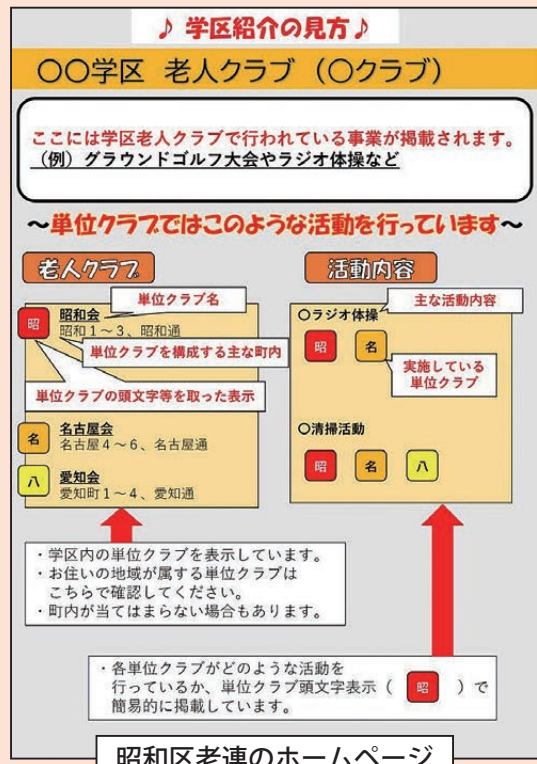
多くの区老連が会員数を減らす中、昭和区老連は、令和4年度中に24名の増員がありました。その秘訣を会長の伊藤彰さんにお伺いしました。

「私たちは事業実施計画にある『仲間づくりの推進』の取り組みとしてまずは、会員減少に歯止めをかけることに重点を置きました。この活動では会員やクラブを増やすことを意識しすぎないように、会員増強の取り組みを昨年優勝した阪神タイガースに倣って『アレ』と表現するのもよいかもかもしれません。老人クラブは、単なる趣味や愛好家の団体ではなく、高齢者が心身の健康維持や自立した生活ができるよう地域で多くの行事を行うなど、自主的・積極的な組織です。またクラブの運営にあたっては行政からの支援もあり、その活動は行政の高齢者施策を補完している一面もあります。しかし、人生100年時代を迎え、高齢者数が増加して、生活の質の維持・向上や社会との繋がりがますます大切になっています。一方、平成10年前後



をピークに会員数の減少が止まりません。老後の過ごし方の選択肢がほとんどなかった時代とは異なり、現代では定年の延長や再雇用で働く人、自分の好きなことに打ち込んでおられる人など、多種多様な生き方をされている人が増えてきています。こうした中、老人クラブのメリットや役割をご理解いただき入会していただけるような取り組みが重要になっています。年齢を重ねるごとに新しいこととの出会いが少なくなり、他者と交流する機会も減って、自宅にいる時間が増えるため高齢者は孤独化します。そして知力・体力の衰えがフレイルへと繋がります。数年後には65歳以上の5人に1人、およそ700万人が認知症になると推計されています。高齢者が社会的な閉じこもりから

脱出して活動できる場所として老人クラブの受け皿づくりと、多くの方の入会が求められています」と語っていただきました。



## 各クラブの声

- ◆ 特定の人気行事(旅行・麻雀)のみ参加したいという希望者も受け入れている。この場合、会費は満額徴収している。
- ◆ 7クラブで同一行動を多くしている。行事などを共同で行って一体感を持つ。
- ◆ 女性会単体での活動ができなくなっている地域になごやかクラブとの交流を勧め、NAC(なごやか・安心・クラブ)の名称で老人クラブに登録した。
- ◆ 解散の申し出があったクラブに対して、区政委員や民生委員の協力で声掛けを実施したところ、次期会長も決まり会員も増加した。
- ◆ 町内の老人クラブ会員が一定数以上いる場合は、他の地域・学区の方に入会しても良いと学区には了解を得ているので、学区の補助や会員からの不満は出ていない。
- ◆ 他団体に呼びかけて行事を共同開催したところ、役員の方に老人クラブの入会資格者が多くいて入会に繋がった。



## なごやか彩時

名東区 法雲山蓮教寺

蓮教寺の本堂は、平成28年11月1日に国の登録有形文化財に指定されました。308年前の正徳6年、現在の地に移転し、天保12年刊行の「尾張名所図会」にも紹介されています。平成29年秋に名東区なごやかクラブ連合会の課外講座として蓮教寺を訪れました。本堂内には金箔が貼られた柱、7種の雅楽器を奏でる天女の浮彫の欄間、その奥の壇には御本尊阿彌陀如来が衆生を迎えに歩みだされる姿の立像が安置され、三井住職から沿革などを教えていただきました。その後、住職自ら奏でられる笙による「君が代」に耳を傾け、雨の古刹を138名が味わいました。

交通 地下鉄「星ヶ丘」駅バスターミナルから市バス幹星丘1号系統「星ヶ丘」行き右(左)回り循環に乗り「極楽西」下車、徒歩約5分

## 能登半島地震災害救援拠金のお願い

1月1日、石川県能登半島を震源に震度7の激しい揺れを観測した地震は、建物倒壊や土砂災害、地盤の隆起など甚大な被害をもたらしました。多くの犠牲者発生とともに、電気・ガス・水道などライフラインが止まり、寒さの中で多くの被災者が厳しい避難生活を余儀なくされています。被災地域の多くの高齢者の方は名古屋市と同じ東海・北陸ブロックに属されています。

今回の緊急事態に対し、なごやかクラブ名古屋としては全国老人クラブ連合会と連携し「令和6年能登半島地震災害救援拠金」の募金活動を実施しています。被災地の高齢者への励ましと老人クラブ等への救援・支援を目的としており、皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。なお、募金については各区老連を通じてお願いしています。